

温州みかん若木の機械移植による早期成園化

改植は伐採、伐根整地から植え付けまで労働負担の大きい作業である。園内作業道を整備し、小型油圧式ショベルを使うと、軽労働で短時間に改植することができる。こうした条件下で、さらに早期成園化を図るため、若木の移植管理について検討した。

8年生樹(興津早生)を供試して、機械移植した(1995年4月)。移植時に、枝の年齢別にせん除程度をかえた(葉はほとんど除去)。その結果、せん除程度が強いほど、その年の葉数回復率(1995年7月)は高い傾向であったが、翌年からいずれも結実し、着果量によって品質のバラツキがあるものの収量をあげることができた(1996年11月)。

この年の夏(移植2年目、1996年7月)、各枝せん除ごとに区分して全摘果夏せん定したところ、総葉数が増加し樹冠も拡大して、1樹当たり収量(1997年)が多く、しかも移

植時の1年枝せん除で優れた。

従って移植の翌年から収量はあるが、夏せん定で樹冠の拡大を促すほうが早期成園化に効果的である。

(柑橘栽培班 主任研究員 藤原文孝)



移植樹の枝のせん除

表1 移植時の枝のせん除程度の違いと移植後の葉、新梢の発生

試 験 区	除 去 枝		新 葉 数	葉数回復率 (%)	新 梢 数	新梢1本 当り葉数
	生重(kg)	葉 数				
1年枝除去	1.5	1,788	952	53.2	295	3.2
2年枝除去	1.9	1,882	1,279	68.0	406	3.2
3年枝除去	4.2	2,663	2,072	77.8	302	6.9

注) 葉数回復率は(新葉数÷せん除葉数)×100とした(1995.7.6調査)。

表2 移植後2年目の結実管理の違いと新梢の発生及び細小根量、収量

試 験 区	移 植 時	2年目夏	春 枝		夏 枝		細小根量 (g)	収量(kg/樹)		果 数 (果/m ³)
			総葉数	総新梢長	総葉数	総新梢長		1996	1997	
1年除	結 果		2,379	3,615cm	214	436cm	14.8	12.5	25.5	48
	全摘果夏剪定		1,511	2,258	1,089	1,957	16.1		26.2	49
2年除	結 果		1,329	1,937	194	392	16.7	7.6	21.3	43
	全摘果夏剪定		1,151	1,730	1,123	1,892	15.4		22.1	52
3年除	結 果		1,834	2,942	178	409	9.2	6.1	20.1	50
	全摘果夏剪定		1,801	2,713	873	1,669	28.8		22.6	53

注) 夏剪定は1996.7に実施した。新梢は1997.4に調査し、根量は1997.5に主幹から50cmの山根側と法面側2か所(20cm×20cm×20cm)を調査した。